

横浜市教育委員会  
定例会会議録

- 1 日 時 平成25年3月14日（木）午後1時30分
- 2 場 所 教育委員会会議室
- 3 出席委員 今田委員長 中里委員 奥山委員 間野委員 山田委員
- 4 欠席委員 坂本委員
- 5 議事日程 別紙のとおり
- 6 議事次第 別紙のとおり

# 教育委員会定例会議事日程

平成25年3月14日（木）午後1時30分

1 会議録の承認

2 教育長一般報告・その他報告事項

「平成24年度小学校等卒業予定者の進路状況調査」の結果について ほか

3 審議案件

教委第61号議案 横浜市立小学校及び横浜市立中学校の通学区域並びに就学すべき学校の指定に関する規則の一部改正について

教委第62号議案 教職員の人事について

教委第63号議案 教職員の人事について

教委第64号議案 教職員の人事について

教委第65号議案 教職員の人事について

教委第66号議案 教職員の人事について

教委第67号議案 教育委員会事務局職員の人事について

4 その他



ところがございます。それから2月26日、2月27日、本会議が開催されまして、予算の関係について集中審議が行われております。3月12日に予算第一特別委員会が開催されまして、教育委員会事務局の局別審査が行われたところがございます。3月14日、本日ですが、追加議案ということで、条例改正について上程をするため、本日追加議案の本会議ということで開催されております。

## 2 市教委関係

### (1) 主な会議等

- 2/18・3/13 放射線対策本部会議（第16回、第17回）
- 3/3 横浜市教育委員会表彰式・横浜優秀教員表彰式・横浜市優秀教育実践校表彰式

### (2) 報告事項

- 「平成24年度小学校等卒業予定者の進路状況調査」の結果について
- 『授業改善ガイド 教材研究・授業実践編』の発行について

市教委の関係の主な会議を申し上げます。2月18日、3月13日、第16回、第17回の放射線対策本部会議が開催されております。3月3日ですが、横浜市教育委員会の表彰式、そして横浜優秀教員表彰式、それと横浜市の優秀教育実践校の表彰式がとり行われております。それからこの間、まだ卒業式が続いておりますけれども、小学校は3月15日から21日にかけて学校ごとに行われております。中学校については、全校一斉に3月8日の日に開催をされております。高校については3月1日、2日、5日、15日と、この4日にわたってそれぞれ高校ごとに開催されております。特別支援学校は3月1日から21日にかけて、それぞれの学校ごとに開催される予定になっています。

報告事項でございますが、「平成24年度小学校等卒業予定者の進路状況調査の結果について」、この後所管課からご説明をさせていただきます。もう一つ、「授業改善ガイド 教材研究・授業実践編」の発行ということで、本を作成いたしましたので、これについても後ほど担当からご説明をさせていただきます。

以上でございます。

今田委員長

教育長の報告が終了しましたが、ご質問等ございますか。

ご質問等がなければ、別途所管課から説明とありました「平成24年度小学校等卒業予定者の進路状況調査の結果について」説明をお願いします。

小野職員課長

職員課です。よろしくお願いをいたします。

それでは、今、2枚のペーパーをお配りしてます。

まず、「平成24年度小学校等卒業予定者の進路状況調査」の結果がまとまりました。これは市内の小学校、それから特別支援学校の小学部を3月に卒業する児童を対象に、毎年2月15日現在で取りまとめをしております。したがって、データ自体は若干この後動くということになりますので、確定版ということではございませんので、よろしくお願いをしたいと思います。

その枠、一番上の帯がありますけれども、これではなく、真ん中の四角い枠ですけれども、こちらの説明に入ります。皆様方は下の「卒業予定者総数」の枠の、一覧表になっておりますけれども、こちらの一番下、網かけになっている、こちらを見ていただいたほうがわかりやすいと思います。

それでは説明をいたします。公立中学校、これは市内、市外への進学予定者で

す。これはちょうど表の中ほどにありますけれども、2万6979名。その上に23年度、前年度は2万6722人ということで、257人が増加をしています。全体に占める割合ですが、83.1%。前年度は82.4%ですので、0.7ポイント上昇したということになります。それから私立の中学校ですけれども、これの進学予定者、表のその公立の隣になりますけれども、こちらを見てください。予定者が5210人。前年度は5417人、207人の減少ということになります。全体に占める割合ですけれども、16.1%。前年度は16.7%で、0.6ポイントの低下という結果になっています。この後はこの表には出ておりませんが、私立の中学校の進学予定者の割合が高い区でいいますと、青葉区が27.3%、それから、これは2枚目の参考資料の2のをご覧いただければいいんですけれども、表自体が非常に細かいですから、聞いていただいたほうがいいと思います。後からお目通しをいただければと思います。青葉区が27.3%、次に高いのが西区24.5%、それから中区23.6%、港北区23.3%、いう状況になってます。

一番下の枠の部分です。卒業予定者の総数ですけれども、平成24年度の市立小学校、それから特別支援学校の小学部卒業予定者の総数、これは3万2541人で、前年度の3万2497人に比べて44人増加をしているということになります。そのうち、小学校卒業予定者は、下の表にありますけれども、3万2456人、特別支援学校の小学部については85人、ということになります。これは参考1の表を見ていただくのですが、これも見にくくて申し訳ありませんが、今言った数字、後から確認をしていただければと思っております。

その下、1の小学校、市立小学校の卒業予定者数は3万2456人で、前年より32人の増加となっています。進路別には、中学校、これは国立、公立、私立の合計になりますけれども、進学予定者は3万2300人、特別支援学校の中等部進学予定者は37人で、その他が119人という形になっております。

一番下になりますけれども、特別支援学校の小学部につきましては、卒業予定者は85人で、全員が特別支援学校の中学部進学予定という形になっております。

説明は以上です。

今田委員長

所管課から説明が終わりました。何かご質問ございましたら、どうぞ。

中里委員

いろいろな中学校を見学に行きましたけれども、非常に落ちついてきた感じがしまして、その学区の小学校からの入学者の動きはどうかと質問をしましたら、中学校は落ちついているので非常に高くなっているという話も伺いました。ここ3年間ぐらい、非常に私立中学校の進学予定者数が減った状態で安定してます。小中一貫教育を推進してきた成果とあわせて社会的な経済状態の問題もあるでしょうけれども、小中一貫の1つの成果かと私は感じますけれども、いかがでしょうか。

小野職員課長

やはり魅力ある公教育ということを中心にこの数年はやってきてますので、それが結果として出ているのかと、あわせまして私立の進学率が低下をしているというのは、不況による影響というのは1つの一因として挙げられるのではないかと思います。

今田委員長

ほかにありますか。

では私からですが、4つの方面別ごとに結果を出すと、また違う見え方がありますか。それは変わらないですか。

富岡法規争訟 担当係長	現在方面別での集計をしておりませんので、今の区別のものをまた改めて集計し直しすれば、結果が出ると思います。
今田委員長	教育長、今、中里先生が言われた見方をどう思いますか。
山田教育長	公教育に帰ってきてもらうということであれば、我々としては一定評価できると思います。けれども、ぜひこれが一過性ではなく、評価を受ければよいなどと思います。けれども、さきほどの中学校の例ではありませんが、少し油断というか緩めると、また荒れたり等しますので、進学についても同じように引き続きやっていく必要があると思っています。
今田委員長	なかなか見方がいろいろあるでしょうけれども、例えば学校運営協議会などがたくさんできることによって、地域の学校に対する理解度も深まるということはあるのかなと思います。理解度が深まるということは、いいものも悪いものも見えてくるのですが、しかし一方で、応援しようという人たちも、過日のフォーラムのような格好であるわけだから、いろいろな要素が絡み合うのかなという気もします。傾向としてはいい方向に進んでくることを期待して頑張っていくということですか。
山田教育長	例えば児童支援専任みたいな職員をつくって、結果として学力に学校が力を注ぎやすくなったとか、反射的効果なのでしょうけれども、そういうのはあるかもしれないですね。それはいろいろな形でサポート体制は充実させてきてますから、そのはね返しとしてあるのかもしれないですね。
今田委員長	それでは、次に「授業改善ガイド 教材研究・授業実践編」の発行について、説明をお願いします。
入内嶋指導部 長	指導部長、入内嶋でございます。 それでは「授業改善ガイド 教材研究・授業実践編」の完成ということで、横浜から授業づくりのサポートブック発行ということで、第2弾になります。これが、ちょっと厚いんですけど、第2弾、昨年出したものがこれでございます。詳しくは指導室長のほうからご説明申し上げます。
吉原指導主事 室長	指導主事室長、吉原でございます。よろしくお願いたします。 今年度、シリーズの第2弾となります「授業改善ガイド 教材研究・授業実践編」を作成いたしました。この作成の母体になりましたのは、横浜市教育課程研究委員会でございます。これは校長先生、また教職員の皆様を中心に、また各教科等の指導主事と一緒に検討し、つくり上げてきたものでございます。今年度1年間の研究の成果という捉えかたをしていただけると、大変ありがたいと思っております。 今回の内容につきましては、これまで同様、国の学習指導要領と横浜版学習指導要領に対応しながら、先生方が使いやすいものは何かということに視点を置いて作成をまいりました。今年度は特に、指導と評価の一体化を図るという視点を大事にしながら、学習評価、これを中心に研究を進めてまいりました。授業の開始前までに何を準備していくことが必要なのか、また、見通しを持った学習展開のためにはどのようなことがポイントになるかということ、若い先生、また経験の少ない先生にもわかりやすいものをつくっていかうということで、丁寧

な内容になったのではないかと考えております。すべての教科等、また個別支援級、また通級までも含めた内容で、同じような展開を考えながらつくらせていただいております。このことにつきましては、本日記者発表をさせていただいております。

以上でございます。

今田委員長

所管課から説明ございました。ご質問ございましたら、どうぞ。

中里委員

すばらしいものができ上がって、後でじっくり内容を読みますけれども、各学校にはこれ、何冊配付されているのでしょうか。

吉原指導主事  
室長

各学校には2冊、配付をいたしております。

中里委員

以前、授業時間数不足してしまった中学校の例がありましたけれども、教育課程の編成や、それから運用は本当に学校長が責任を持ってきちんとやらなければいけないのですが、こういうふうな事務局で苦労していろいろな冊子を作ったものをどのように活用するかというのが、学校によって差があるのではないかと心配しております。学校によっては教育課程コーナーみたいな、教員がすぐ手にとりやすいようなコーナーを職員室の中につくっている学校もあります。ぜひそのような、すぐ手にとったり、議論したり、伝えたりするようなのを、学校現場でやりやすい実践例を紹介していただいて、1畳ぐらいのスペースがあれば活用できるものになっていくので、ぜひ運用の部分で学校に働きかけもお願いしたいと思います。

吉原指導主事  
室長

今の点でよろしいでしょうか。実は昨年度、先生が今ご提案いただいたものに近いと思いますが、事務主査の先生からカリキュラムコーナーが各学校で必要ではないかという提案をしていただいているところがあります。ただこれは、やはり1回の提案ではなかなか周知していけないところもありますので、ぜひ先生方に利用していただきやすい、これまでの資料等がより有効に活用していただけるような学校でのコーナー設置ということも、今後また教育課程研究委員会等の場面で先生方にお知らせをしていけたらと考えております。ありがとうございます。

奥山委員

すごく厚い本ですし、結構なお値段もするようですけれども、学校に2冊配付ということで、先生方はこれを参考にするとき、紙媒体だとどこかにあるとか、どなたか使っていると使えないということもあるのかなと思います。ウェブで見れるようにというのは、これは書籍で、販売しているので、著作権の問題とかもあるのかもしれませんが、先生方が使うという分にはそこは取り出せる仕組みというのも考えられるのでしょうか。今後、どのようになるのでしょうか。

吉原指導主事  
室長

明確にはお答えできるかどうか分からないのですが、やはり書籍として販売しているものですので、勝手に扱うことは難しいかなとは思っております。全教科分入っておりますので、特に小学校の先生には大変使っていただけるものと思っておりますので、またちょっと相談をしながら工夫はしていきたいと考えております。

今田委員長

記者発表資料で黒丸が5つ並んでいて、例えば、1番目、2番目、5番目は、これをどう生かせるかという部分、それと3番目、4番目は少し要素が違うのか

な。だから記者発表資料の書き方としてこの部分を分かりやすくするという意味でいくと、1、2とか5とかがうまくかみ合わされると、よく分かるのかなと思います。とにかく、みなさん熱心だから分厚いのを作って、それはそれで必要ですが、配るのだとすると、生かし方がうまくイメージできるように周知を工夫するとよりいいのかなと、そのように思います。ご苦労様でした。

それでは、次に議事に日程に従い、審議案件に移ります。まず会議の非公開についてお諮りします。第62号議案、教職員の人事について、第67号議案、教育委員会事務局職員の人事については、人事案件のため、非公開としてよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

今田委員長

それでは、第62号議案、教育委員会第67号議案は非公開といたします。審議に入る前に事務局に確認ですが、何か報告事項はありますか。

重内総務課長

はい。3月11日、教科書・市民フォーラムから横浜市立高校教科書採択に関する要請書が提出されました。この要請書につきましては、事務局で調整の上、次回以降にお諮りしたいと思います。

次回の教育委員会臨時会は、3月21日、木曜日の午前10時から開催する予定です。よろしく願いいたします。

以上でございます。

今田委員長

皆さん、よろしいでしょうか。それでは、次回の教育委員会臨時会は3月21日、木曜日の午前10時から開催する予定です。別途、通知しますのでご確認ください。

それでは審議に入ります。第61号議案、横浜市立小学校及び横浜市立中学校の通学区域並びに就学すべき学校の指定に関する規則の一部改正について、所管課から説明をお願いします。

伊奈施設部長

施設部でございます。

教委第61号議案につきまして、ご説明をさせていただきます。本件につきましては、1枚めくっていただきますと、2ページ、提案理由のところがございます。住民要望による通学区域変更のため、横浜市立小学校及び横浜市立中学校の通学区域並びに就学すべき学校の指定に関する規則の一部を改正したいので、ご提案申し上げるものでございます。

詳細につきまして、所管課長から説明をさせます。

上田学校計画課長

学校計画課長の上田と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。それではお手元の資料の5ページをご覧ください。

今回通学区域の変更の位置図について、3つ掲載をさせていただきました。一番上の図をご覧ください。矢印の先の黄色い星の部分が今回の見直しの対象地域になります。枠の中にありますとおり、神奈川区松見町1丁目の一部の地域になります。ここから、地域から学区変更についての請願がでましたので、今回見直しを行うものです。次に、真ん中の拡大図をご覧ください。ちょうど中央のピンク色の斜線の部分が今回の対象地域になっております。赤い点線が小学校の学区線、青い線が中学校の学区線になります。今回見直しを行った

後、変更後の位置図を一番下に掲載をしておりますが、ご覧のとおりになります。

このことに伴いまして、指定校は西寺尾小、錦台中から大口台小、神奈川中に変更になります。このことに伴いまして、ここに住んでいる方の子どもが、通学距離が近くなるということと、学校に行くに当たって高低差が少なくなるということで、通学しやすくなります。また今回、この通学区域の見直しを行っても、関係校の4校の学級数に変更はございません。

説明につきましては以上でございます。どうぞよろしく願いいたします。

今田委員長

所管課から説明が終了しました。ご質問等ございましたら、どうぞ。

では、ご意見等がなければ、第61号議案については、原案のとおり承認してよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

今田委員長

それでは、原案のとおり承認します。

以上で公開案件の審議が終了しました。その他、委員の皆さんから何かございますか。

特にご発言等がなければ、非公開案件の審議に移ります。傍聴の方はご退席願います。また、関係部長以外の方もご退席ください。

<傍聴人及び関係者以外退出>

<削 除>

今田委員長

本日の審議案件は以上です。

これで、本日の定例会を閉会といたします。

[閉会時刻：午後3時5分]